



インターフェイス管理

- [Firepower 9300 インターフェイスについて, 1 ページ](#)
- [インターフェイス プロパティの編集, 2 ページ](#)
- [ポート チャネルの作成, 2 ページ](#)
- [ブレイクアウト ケーブルの設定, 4 ページ](#)

Firepower 9300 インターフェイスについて

Firepower 9300 は単一のインターフェイスだけでなく、EtherChannel（ポートチャネル）インターフェイスもサポートします。EtherChannel インターフェイスには、同じタイプのメンバー インターフェイスを最大 16 個含めることができます。

各インターフェイスは、次のいずれかのタイプになります。

- **[Data]**（デフォルト）：データ インターフェイスはセキュリティ モジュール間で共有できません。
- **[Management]**：管理インターフェイスはセキュリティモジュール間で共有できます。各論理デバイスには、管理インターフェイスを 1 つだけ割り当てることができます。
- **[Cluster]**：クラスタ化された論理デバイスに使用する特別なインターフェイス タイプです。このタイプは、ユニット間のクラスタ通信用にクラスタ制御リンクに自動的に割り当てられます。デフォルトでは、クラスタ制御リンクは 48 番のポートチャネル上に自動的に作成されます。クラスタ制御リンク用に別のポートチャネルを使用する場合は、クラスタを導入する前に、別のポートチャネルにクラスタ タイプを割り当てることができます。

インターフェイス プロパティの編集

手順

- ステップ 1** インターフェイス モードを開始します。
scopeeth-uplink
scope fabric a
- ステップ 2** インターフェイスをイネーブルにします。
enterinterfaceinterface_id
イネーブル化
- ステップ 3** (任意) インターフェイス タイプを設定します。
setport-type {data | mgmt | cluster}

例 :

```
9300 /eth-uplink/fabric/interface # set port-type mgmt
```

data キーワードがデフォルトのタイプです。 **cluster** キーワードは選択しないでください。

- ステップ 4** (任意) インターフェイス速度を設定します。
setspeed {10gbps | 1gbps}

例 :

```
9300 /eth-uplink/fabric/interface* # set speed 1gbps
```

- ステップ 5** 設定をコミットします。
commit-buffer
-

ポート チャネルの作成

EtherChannel (別名ポートチャネル) は、同じタイプの最大 16 のメンバインターフェイスを含めることができます。

はじめる前に

Firepower アプライアンスは、Active Link Aggregation Control Protocol (LACP) モードの EtherChannel のみをサポートします。最適な互換性を得るために、接続スイッチ ポートをアクティブ モードに設定することを推奨します。

手順

ステップ 1 インターフェイス モードを開始します。

```
scopeeth-uplink
scope fabric a
```

ステップ 2 ポートチャネルを作成します。

```
createport-channelid
イネーブル化
```

ステップ 3 メンバ インターフェイスを割り当てます。

```
createmember-portinterface_id
```

例 :

```
9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/1
9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/2
9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/3
9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # create member-port Ethernet1/4
9300 /eth-uplink/fabric/port-channel/member-port* # exit
```

ステップ 4 (任意) インターフェイス タイプを設定します。

```
setport-type {data | mgmt | cluster}
```

例 :

```
9300 /eth-uplink/fabric/port-channel # set port-type mgmt
```

data キーワードがデフォルトのタイプです。デフォルトの代わりにこのポートチャネルをクラスター制御リンクとして使用する場合以外は、**cluster** キーワードを選択しないでください。

ステップ 5 (任意) ポートチャネルのすべてのメンバのインターフェイス速度を設定します。

```
setspeed {10gbps | 1gbps}
```

例 :

```
9300 /eth-uplink/fabric/port-channel* # set speed 1gbps
```

ステップ 6 設定をコミットします。

```
commit-buffer
```

ブレイクアウトケーブルの設定

次の手順では、Firepower シャーシで使用するブレイクアウトケーブルを設定する方法を示します。ブレイクアウトケーブルを使用すれば、1つの 40 Gbps ポートの代わりに4つの 10 Gbps ポートを利用できます。

手順

ステップ 1 新しいブレイクアウトを作成するには、次のコマンドを使用します。

a) ケーブル接続モードを開始します。

```
scopecabling  
scope fabric a
```

b) ブレイクアウトを作成します。

```
createbreakoutepm_slotport
```

例：

```
9300 /cabling/fabric/ # create breakout 2 1
```

c) 設定をコミットします。

```
commit-buffer
```

これにより自動リポートが実行されます。複数のブレイクアウトを設定する場合、**commit-buffer** コマンドを発行する前にそれらすべてを作成する必要があります。

ステップ 2 ブレイクアウトポートの有効化および設定を行うには、次のコマンドを使用します。

a) インターフェイスモードを開始します。

```
scopeeth-uplink  
scopefabrica  
scopeaggr-interfaceepm_slotport
```

b) インターフェイス速度およびポートタイプを設定するには、**set** コマンドを使用します。インターフェイスの管理状態を設定するには、**enable** または **disable** コマンドを使用します。

c) 設定をコミットします。

```
commit-buffer
```
